

覆転ボート

「危機予見はできず」

豊橋市長 遺族に回答書提出

「(学校は)危機を予見できなかった」。浜松市の浜名湖で六月、野外教育活動中のボートが転覆し、豊橋市章南中一年の西野花菜さん(当時12)が亡くなった事故。佐原光一豊橋市長は一日の

会見で、遺族が求める真相究明について、市独自の調査では困難との考えをあらためて示した。花菜さんの父親の友章さん(50)は十月十二日、市に真相究明を求め、要望書を提出し、



人の死を決して無駄にしてはならないと心に刻み、今後も最大限努力を積み重ねる」と強調。真相究明については「静岡県警と同県教委に最大限協力する」などとし、遺族の満足する内容にはならなかった。一方、佐原市長は会見で「二度と同様の事故を繰り返さないように」とし、事故の風化を防ぐため、章南中の図書室に花菜さんをしてはならないと心に刻み、今後最大限努力を積み重ねる」と強調。真相究明については「静岡県警と同県教委に最大限協力する」などとし、遺族の満足する内容にはならなかった。一方、佐原市長は会見で「二度と同様の事故を繰り返さないように」とし、事故の風化を防ぐため、章南中の

(池内琢)

2010.11.2 9日

2010.11.2 静岡

再発防止「最大限に努力」

1/2 (K) 静岡

浜名湖のボート事故 豊橋市、遺族に回答

浜名湖で6月、県立三ヶ日青年の家(浜松市北区)のボートが転覆し、

豊橋市の女子中学生が死亡した事故で、同市は最大限の努力を重ねる」とする回答書を届けたことを明らかにした。

同日、会見した佐原光一市長は、市と市教委が連携して再発防止策の構築を進めていく姿勢を強調した。一方で、今回の事故の真相解明については「警察など専門の捜査機関に情報提供して判断を委ねるのが筋」と述べ、

市単独の調査では限界があるとの認識を示した。三ヶ日青年の家が一部の活動を再開したことに関しては「マニュアルの整備や職員研修訓練などを経た上での再開だろう。市の組織でも参考になるものがあれば取り入れたい」と受け止めた。要望書は10月12日、事故で亡くなった豊橋市立章南中一年西野花菜さん(当時12)の父友章さん

ん(5)が佐原市長を訪ねて提出した。西野さんは市議会に提出するための署名運動を始めている。

情報収集に努め静岡県（五）は「元氣に出かけた娘が戻って来なかった事実を徹底して追及してほしかった」と話した。近く署名活動を行い今後も真相究明と再発防止の徹底を求めたいと話している。

佐原市長は「訓練を行った施設のマンユアの問題点を、学校が事前に把握するのは困難。危機は予見できなかった。水難事故の調査は専門家に委ねるほかない」と話した。

2010.11.2 朝日

浜名湖転覆事故
豊橋市が回答書
遺族は納得せず
浜松市の浜名湖で六月、野外教育活動中のボートが転覆し、愛知

県豊橋市立章南中一年の西野花菜さん（当時12）が死亡した事故で、豊橋市は、事故の真相究明と再発防止策に関する佐原光一市長の回答書を遺族に提出した。これまでの市側の説明を繰り返す内容で、遺族は「詳細に触れられていない」と納得していない。

市長が一日の会見で説明。遺族が十月末までの回答を求めた真相究明について、A4判一枚の書面で「独自に

独自の原因究明姿勢示さず

浜名湖転覆事故 豊橋市、遺族に回答書

浜名湖（浜松市）で自然体験学習中の豊橋市立章南中学校のボートが転覆、1年生の西野花菜さん（当時12）が亡くなった事故をめくり、両親が原因究明などを求める要望書を同市に出していた問題で、市側の回答書の骨子が28日、明らかにされた。11月1日の市長定例会見で発表される予定。

回答書は、佐原光一市長名で「（花菜さんの死を無駄に

しないよう）市・教育委員会として今後も最大限の努力を積み重ね、万全を期していかなければならない」とした。

しかし、両親が要望していた「原因の調査、真相の解明」については、市教委の「情報収集」、静岡県警などの調査に「協力する」にとどまる内容で、市独自に教育現場での原因究明を進める姿勢は回答書には明記しなかった。父の友章さん（51）は豊橋市教委の取り組みへの不信感から、佐原市長に12日、要望書を提出、10月末日までに要望事項に取り組みか否かの回答を求めている。

（山田雄介）

2010.9.29 朝日

市の原因調査に否定的認識示す

浜名湖事故で豊橋市長

浜名湖（浜松市）で自然体験学習中の豊橋市立章南中学

2010.11.2 朝日

は分析をせず、虚偽の測定結果を報告書に記載した。採取した試料を分析する機器が稼働した形跡がなかったという。

曙会の神取祥和理事長は取材に対し、「作業環境測定士はすでに退職しており、動機などは分からないが、管理責任は免れない」と話した。

父の友章さん（51）は「行政として教育現場とどうかわかっていくのかを問いかけたが、何も伝わっていないと感じる」と話した。（山田雄介）

校のボートが転覆した事故をめくり、亡くなった西野花菜さん（当時12）の両親が原因究明などを求める要望書を豊橋市に出していた問題で、佐原光一市長は1日、定例会見で両親への回答書の内容を発表した。

会見で佐原市長は、市としての主体的な原因調査について、「『市として何が調べられるのかな』という気がする」と述べ、「事件としては、静岡県警がやる。海難事故としては専門の人たちがやること」と、否定的な認識を示した。教育現場での原因究明についても「市が自ら動くというより、教育委員会が教育委員会の中で調べていただくこと。必要なことがあれば支援する」とした。

父の友章さん（51）は「行政として教育現場とどうかわかっていくのかを問いかけたが、何も伝わっていないと感じる」と話した。（山田雄介）